



信玄全集

廿

ケ 5
68
20





甲陽軍鑑全集下

將來軍紀上

- 一 勝於公家督付大合戰穿鬚之事
- 二 浪深表裏十條付勝於繼目朱戶并并諏訪明神夢想之事
- 三 甲列身付武田惣次家康付小負事并并於新設切通勝於公孫付之事
- 四 勝於公家及流矢向之事
- 五 高天神落城付高坂四友能分列之事
- 六 勝於公家松働付松井被謀付并并信列於信家後虎公對面之事

甲陽軍鑑全集下

卷下

四

七 坂小田原揆見付 奥平達公并 佐玄吊之り
 八 長紫合戦付 高坂迎小出宗季并 彈正孫玄胤
 九 飯沼原高坂同小山信茂付 武田貞勝貞之胤
 被討事付

十 勝頼横濱襲撃向付 越中備後佐々木
并 氏政勝頼縁遠同朝書之り

甲陽軍鑑全集 卷二十 将来軍記上

甲陽軍鑑全集 卷二十 将来軍記上

○一 勝頼公家督付 大合戦穿撃付 事

元龜四年天正元年正月十二日。佐玄公湯田原上付て
 同年五月上勝頼公市任之。仍高坂代々物之。将来の軍記
 と号す。天正元年三月頃。春日也。湯田原之。他也。佐玄公の敵越
 後の備後佐々木信長。淡路の家康。と外軍。新田。且利。越中
 城中。各小敵。佐玄公之。又相列。小紫。氏政。佐玄公。佐玄公。佐玄公。
 此等。他界。と号す。而時。一敵。討て。之。と。而。於。計。り。以。て
 一百年。一合戦。之。の。事。也。小紫。氏康。河越。之。八。方。奔
 大軍。一。八。子。之。孫。多。小。紫。軍。之。也。越中。の。直。下。佐玄公
 此等。下。於。安房。此。義。廣。物。合戦。一。勝。中。乃。此。武。氏。康。公。也。之。の
 利。運。之。也。是。又。一。被。討。又。小。敵。一。勝。又。六。場。之。事。也。梅。之。海。軍。也。

一。家康公千五百頃川と云て二。爲る方ありて河井は務
 の朋務初念と好意にて信長理家より今時登向の時也
 河井が出入りして信長身と捨て河井より引合家康公と
 の時分。若役の敵と成ひしを。押付とて付きしを。後より。今
 日。一。魁尾。家康公と信長公と。士大前より。河井は之
 ○二。漢源表裏十ヶ条。勝於繼國事。平。敵初め。林。若。想。風。
 一。五。熱。と。源。知。と。漢。但。大。身。の。乳。玉。と。成。治。治。事。小。身。の。心。志。
 忠。功。の。を。ま。う。て。不。成。九。後。秋。源。一。也。秋。源。は。是。也。五。熱。も。形。科。人
 と。成。む。後。と。は。さ。さ。か。り。二。人。と。源。知。我。身。と。は。
 三。忠。義。忠。功。乃。公。然。と。源。知。五。人。と。は。小。身。體。と。源。知。と。は。
 と。源。知。五。人。と。は。小。身。體。と。源。知。と。は。五。人。と。は。小。身。體。と。源。知。と。は。
 才。一。玉。持。た。五。熱。と。知。の。六。む。一。と。秋。源。一。也。此。之。下。の。出。以。人。秋。源

構。草。づ。く。一。秋。源。已。し。善。信。は。心。を。穿。數。今。あ。一。と。云。は。後。事。の
 信。後。之。一。相。定。の。以。の。そ。之。上。と。云。四。法。軍。法。一。有。る。も。も。我
 氣。と。る。人。の。無。事。と。も。相。恐。信。不。一。私。と。源。知。と。は。も。後。は。
 信。と。熱。あ。く。も。將。は。危。も。知。別。政。家。中。に。一。と。成。て。を。成。む。秋。源
 才。二。玉。持。た。人。と。は。我。身。と。源。知。と。は。出。以。之。と。始。走。廻。形。は。是。身
 一。と。の。懐。一。と。は。信。知。も。あ。り。後。と。才。一。廣。表。の。一。と。は。一。と。は。一。
 必。一。と。玉。持。た。一。と。は。氏。の。困。窮。も。下。は。其。事。と。知。が。一。と。は。一。
 五。軍。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。
 才。三。一。玉。持。た。將。は。家。康。公。の。信。忠。の。忠。功。の。公。益。は。之。れ。を。家。の
 下。と。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。
 此。後。士。と。も。小。身。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。
 後。而。於。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。と。は。一。

の酒樽もまじりてはるるまじりてはるる。豊國成持をしては
れど人死。勝頼公はるる上りあり。こころめ。勝頼のほねん
れど。橋の器へちこころる。危うりつ。よは豊國成持
と。りえもろく。二版持成。八。怪。とつ。と。成。も。あり

○八 長藤合戦 廿五日。連。よ。出。る。事。并。保。云。之。り

こころ勝頼公は列より。ま。ゆ。平。山。と。越。後。松。の。城。及。ん。ま。は
と。打。越。之。列。り。と。出。押。出。奥。平。が。越。後。長。藤。の。城。へ。あ。攻。り。り
よ。あ。原。は。信。不。成。結。り。山。藤。と。ま。束。一。ら。押。法。信。と。付。ら。し
は。あ。信。長。と。し。出。せ。と。し。付。は。三。川。信。代。の。旗。が。ま。ま。ふ。ふ。原。太
と。云。ち。の。一。方。の。使。し。と。ま。あ。り。信。長。出。ま。し。と。の。は。事。事。と
三。方。よ。あ。原。太。六。一。中。付。り。あ。り。信。長。と。起。法。と。ま。守。り。是
つ。べ。し。と。中。合。合。の。列。等。作。り。あ。ま。り。校。隊。城。川。に。て。我。軍

も。加。勢。は。は。世。方。信。長。と。出。あ。り。中。合。の。起。法。信。長。と。身。成。ら。り。し。ら
乃。是。北。折。を。信。と。あ。り。は。勝。頼。公。を。何。と。持。上。あ。原。太。三。川。一。方。を。あ。ま
ら。り。唯。今。し。と。成。田。と。守。事。事。の。勝。頼。と。一。和。し。と。し。は。信。長。の
打出。を。列。の。替。目。地。を。信。長。と。信。長。と。付。り。及。び。信。長。と。し。和。し
働。も。り。あ。り。世。と。十。日。の。あ。り。ま。成。田。は。あ。り。と。つ。と。事。と。な。は。信。長。と
信。長。と。り。り。と。ま。と。用。大。藤。守。部。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ
也。又。信。長。と。り。り。と。利。の。内。信。長。と。り。り。と。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ
い。の。出。る。事。事。と。り。り。と。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ
し。り。信。長。と。り。り。と。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ
る。信。長。と。り。り。と。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ
も。又。信。長。の。信。長。と。り。り。と。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ
松。と。り。り。と。信。長。と。あ。り。と。ま。と。し。り。信。長。と。の。あ

隨以取信勝於公。後列作宗途出ると出さず天をうまをせむつ
め不討りて付く。信長より討て入秋山もむじこるれか之助とて
とてめさ。伯耆。在光とて搦捕磔相よわげ。家康も身の内
早女も勝於殊勲に物也。上強教老の事あて伯母も律
○十勝於公。横次。後免向。後信元。源。越中。代。事。

并 氏政。勝於。源。越中。同。於。書。之。事。

天正四年 丙子。去。を。列。を。律。城。年。ら。為。勝。於。城。同。於。入
出。る。之。事。也。康。より。城。に。押。す。と。横。次。か。と。云。ふ。は。城。を。取。
大。勝。於。公。の。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。
此。後。之。事。也。信。長。の。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。
坂。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。
余。が。人。に。討。て。信。長。の。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。

天正四年 丙子。去。を。列。を。律。城。年。ら。為。勝。於。城。同。於。入
出。る。之。事。也。康。より。城。に。押。す。と。横。次。か。と。云。ふ。は。城。を。取。
大。勝。於。公。の。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。
此。後。之。事。也。信。長。の。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。
坂。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。
余。が。人。に。討。て。信。長。の。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。と。云。ふ。事。也。

未だ勝て甲の流と志あるがも元初とては勝たぬは換次加ふ
 へん後(由縁)人あふ世計とて是誠とあかんか然る後正
 是と力て意欲より勝業付り上六教とて不事とて不事
 事なるも年勝の感とて家康只今よりも無の身ゆらさ
 生勢とて上吉業とておれぬとて三つとてこの勝りなる
 まいりゆれ中家康の居城浜松の上道とて里中とて甲列
 る六女教とて別道何とて意欲ても意欲の天と後河内府中とて
 此小山とてさう天神とて日月とて日月とて日月とて日月
 及び何とて日月とて日月とて日月とて日月とて日月とて日月
 さらば勝たぬとて固とて多世の勝たぬとて甲とて甲とて甲
 席一人の是悟とて家康とて合戦とていひもろまど又信長とて一身の
 是悟とて我中とて合戦とていひもろまど又信長とて一身の

家康信長とては捕りては事とて年吉業とて不事とて不事
 身小身たりは信院及び信長の家大形討死とてさうの勝たぬ
 遠之とて信長とて多持大身とての合戦とて捕とてさうの勝
 子大事とてはとて不事勝たぬは換之教の捕とて捕とて捕
 孫とてまどとて勝とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕
 兄とてさうの捕とて勝とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕
 家のはたかち勝とて勝とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕
 せとてさうの合戦ははは信長家康の勝たぬとて合戦ははは
 とら捕とて捕とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕
 年事とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕
 何とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕とてさうの捕
 勝たぬとて信長とて家康とて山徳とていひもろまど又信長とて一身の

酒肉欲色所求皆遂云。曰茲用東國西之人。每不羸
於古人云。雖跨三列。過半吾甲陽之山也。處今部陽
之一字透得者。希自天正丁丑。拔却黑駒。用鑣而不
碍。往來通車馬。是大字得路之謂乎。伏冀以這用。因
力忠勇。馳八極。武威傾九列。而掌上舞。天下量外致。
太字者。言日。族之。至祝至禱。誓首敬白。

天正丁丑 壬子 夏六日

勝賴

奉納富士神前

一伊勢 熊野 湫沔

願書之西切之方々々

甲陽軍鑑全集 卷三十終

